

# 麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 動物応用科学科

職階 教授

氏名 塚田英晴

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・・毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

## 1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

私は2015年に動物応用科学科野生動物学研究室の専任教員として赴任して以来、野生動物学分野に関わる教育・研究活動に従事してきた。令和6年度には学部で10科目、大学院で6科目を担当した。野生動物学分野の教育には、野生動物の実態を野外で実践的に学ぶことが重要と考え、特に野生動物学野外演習や卒業論文などの科目では、実際のフィールドでの調査活動を通じ、座学で学んだ知識と技術の定着に力を注いでいる。学生たちが、本学で学んだ知識と技術を実社会でも活かしつつ、応用力を発揮する手助けとなるよう努めている。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
野生動物学野外演習	動物応用科学科	選択	3年	59
サイエンスリテラシーII	動物応用科学科	必修	1年	80
専門ゼミ	動物応用科学科	必修	3年	9
卒業論文	動物応用科学科	必修	4年	8
基礎野生動物学	動物応用科学科	必修	2年	137
野生動物学	動物応用科学科	選択	3年	96
いのちの共生論	動物応用科学科	必修	1年	137
科学の伝達	動物応用科学科	選択	4年	6
畜産学概論（前期）	動物応用科学科	選択	1年	8
畜産学概論（後期）	動物応用科学科	選択	1年	91
獣医学概論	獣医学科	必修	1年	136
保全生態学特論I	動物応用科学専攻	選択	修士1,2年	8
保全生態学特論II	動物応用科学専攻	選択	修士1,2年	8
動物共生科学特別演習II-I	動物応用科学専攻	必修	修士1年	4
動物共生科学特別演習II-II	動物応用科学専攻	必修	修士2年	8
動物共生科学特別研究II-I	動物応用科学専攻	必修	修士1年	4
動物共生科学特別研究II-II	動物応用科学専攻	必修	修士2年	8

## 2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

教育（Education）の本質は、学生の隠れた可能性や才能をeducateする（引き出す）ことにあり、外部からの押し付けではなく、内発的な力を発揮させることが重要だと考えている。単に知識を与えることにとどまらず、自ら学ぶ姿勢を励ます並走者でありたいと思う。そのためにも、教師自らが常に学ぶ姿勢を示し、新しい問いを発信し続けることで、学生とともに学び、新たな問いの創造者であり続けたい。教師と学生といった上下関係が固定されがちな関係を超えて、学問に対する志を同じくする同士として、ともに高め合う存在になれば本望である。

やや抽象的すぎて恐縮であるが、私自身が専門とする学問領域に引き寄せて表現すれば、一緒に野生動物の生態や行動の不思議を面白がり、その謎を解き明かすことを、学生とともに取り組んでいきたい。できれば、学生さんと一緒に私自身も汗をかく体験を大事にしていこうと思う。または、野生動物が引き起こす厄介な問題に頭を悩ませ、その解決の糸口をとも

に考え、改善のための努力を学生とともに推し進めていきたい。こうした営みを、面白い！  
と思ってくれる学生さんが少しでも増えてくれれば幸いである。

### 3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

まずは実践。失敗を恐れずに取り組んでみることを薦めている。失敗をした場合、その原因を考えて、自ら改善させることが、学生の可能性を引き出すきっかけになると感じている。とにかく動き始めさせること。そのための敷居をなるべく低くするよう、環境づくりをすること。そうした工夫が大事だと考えている。

野生動物を対象とした分野で食べていくのはなかなか困難で大変なことであるが、こうした分野で食える人材を増やすことに、実際の研究・教育活動をつなげていきたい。例えば、野生動物と関わることを楽しむこと、それ自体が飯の種となるような実践を研究・教育活動に取り入れて行きたいと考えている。自分で新しい仕事を開拓していくようなパイオニアが生まれるのを私自身が面白がり、それを焚きつけるような黒子になれば嬉しく思う。

#### (1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

オンデマンド配信を用いて、講義や実習の内容を事前に学習できるようにしている。学生はあらかじめ動画を視聴し、基本的な知識や作業の流れを理解したうえで授業や実習に参加してもらっている。特に実習では、実際の作業や課題に取り組む時間を重視し、授業ではオンラインでの質問や意見交換も取り入れることで、学生が自ら考え、学びを深められるよう工夫している。

#### (2) ICTの教育活用

有

AzaMoodleを活用し、課題の提示や提出管理、連絡を行っている。講義はすべて録画し、後から視聴できるようにすることで、学生が自分の理解度や都合に応じて復習できる環境を整えている。あわせて、Googleフォームによるアンケートの実施や集計、YouTube動画などの教材活用を通じて、理解の補助と授業改善に役立てている。

### 4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

#### (1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

実習の手順を視覚的に理解できるよう、動画教材や図解資料を多用している。しかし、学生個々の進捗に合わせた個別指導の時間が十分に確保できていないのが現状である。今後は、オンデマンド教材の質をさらに高め、対面授業時にはより踏み込んだ個別フィードバックや、応用的な議論に時間を割けるよう構成を再検討したい。

## **(2) 学生の理解度の把握**

**B**

オンデマンド配信や講義録画を活用し、事前・事後学習の機会を提供している。現在は資料の提示に留まっているため、今後は学習のポイントをまとめたガイドを作成するなど、学生が迷わず自習に取り組める動機付けを強化したい。また、自習用課題の提出状況を細かく確認し、学習習慣の定着をサポートする体制を整える。

## **(3) 学生の自学自習を促す工夫**

**B**

オンデマンド配信や、講義録画を残すことで、事前と事後に学習できる機会を増やす努力をしている。

## **(4) 学生とのコミュニケーション**

**B**

AzaMoodleのメッセージ機能やメールを活用し、随時質問を受け付けている。しかし、実際に質問をよせてくれる学生は多くない。今後は、匿名で質問できるツールを導入したり、授業内に質問の時間を明確に設けたりすることで、より多くの学生が気軽に相談できる環境を作りたい。

## **(5) 双方向授業への工夫**

**B**

講義の途中で質問を投げかけ、自分の伝えている内容が理解されているかを確認する工夫をしている。

## **(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）**

該当なし

## 5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

### (1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

アンケートで指摘のあった「計算式やグラフの読み取りの難しさ」に対し、計算の工程を細分化したスライドを加えて丁寧に説明した。また「板書や資料の文字量」についても、フォントサイズの拡大や情報の精査を行い、視覚的な分かりやすさを重視した資料作成を心掛けた。

### (2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

資料の視認性を向上させたことで、講義中の学生の視線が手元のノートだけでなく教員やスクリーンへ向くようになった。一方で、計算の解説を丁寧にすることで進度が遅れがちになるという新たな課題も見えた。今後は、基礎的な計算については事前学習に回すなど、時間配分の最適化が求められる。

### (3) (2)を踏まえた次年度の取組

次年度は全面オンデマンド授業へ移行するため、学生が自分のペースで学習できる環境を整える。アンケートで指摘のあった計算やグラフの解説については、スライドの図解を増やして視覚的に補足する。また、Moodleの質問機能を活用し、オンライン上でも不明点を解消できるよう運用していく。

## 6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

### (1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

とにかくわかりやすい講義となるような取り組みを強化し、小テストなどで確実に知識が定着する工夫を心がける。

### (2) (1)の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

概ね好評でしたので、こうした改善を続けていきたい。

## 7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

大学で開催されるFD研修会等には積極的に参加し、自分の指導力向上につながる情報を吸収するよう努めている。

## 8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

短期的には、野生動物を対象とした分野で活躍する人材を一人でも多く輩出することを目指して、知識の定着や実践力の育成に努めていきたい。とはいえ、野生動物に関わる分野のパイは大きくなく、その市場拡大を図ることも重要な課題である。そのためにも、長期的には、新たな市場を拡大できるような新規事業を提案し、新分野を切り開いていけるような野生動物分野のパイオニアを育成し、この分野の拡大に貢献したい。

## 9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

特になし。